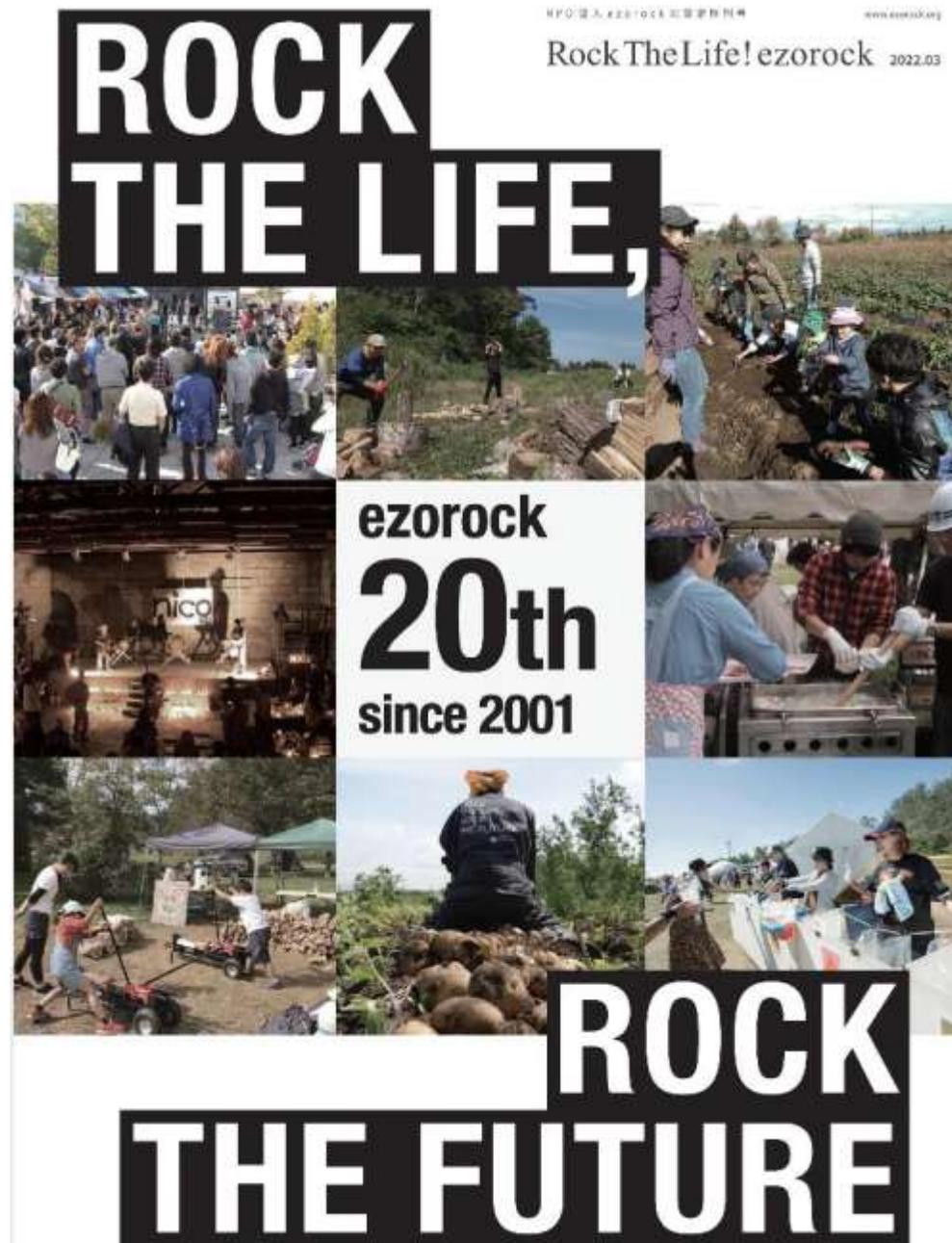


参加型の組織づくりと協働事例

NPO法人 ezorock 代表理事

NPO法人北海道NPOサポートセンター理事(戦略担当)

草野 竹史



草野 竹史(くさの たけし)

1979年札幌市生まれ。東陵高校卒。酪農学園大学経営環境学科卒。大学時代に国際青年環境NGOが実施する野外ロックフェスにおける環境対策活動に参加したことをきっかけに、NPO・NGOの分野に参加。26歳から若者による社会参加を推進する「NPO ezorock」代表理事に就任。最近は、**地域のこと3分の1、若者のこと3分の1、NPOのこと3分の1**を実施中。

主な兼職

NPO法人北海道NPOサポートセンター理事(戦略担当)

→ NPOを支える中間支援組織、道の施設(市民活動促進センター)を運営、

NPO法人北海道グリーンファンド(理事)

→ 日本初の市民による風力発電を設置。合同会社北国熱源社共同出資

認定NPO法人ポロクル(理事)

→ サイクルシェアリングポロクルの展開 ※現場管理はezorockが運営

ほか、NPO ipledge、合同会社machicen、大学非常勤など



ボランティア # NPO・NGO
社会教育・公民館 # 環境問題
若者・次世代 # 地域づくり
ソーシャルビジネス？
野外フェス関係のTシャツしか着ません

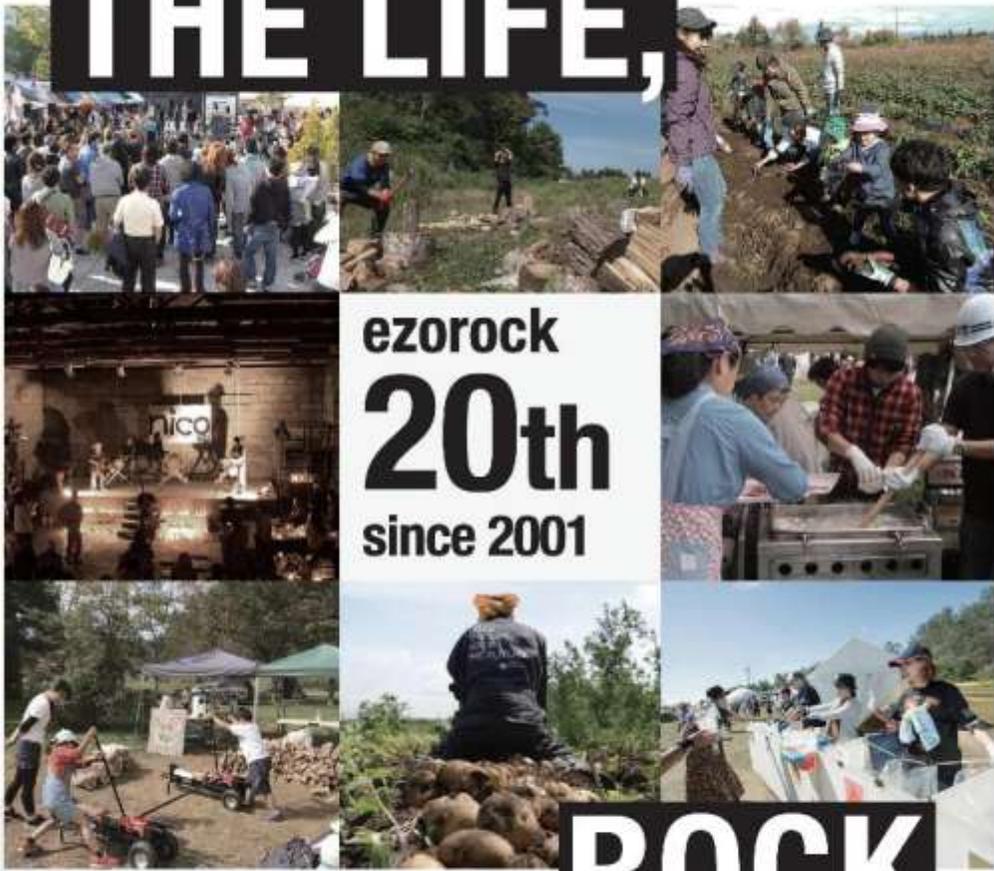
やっていること、やってきたこと

- ・ RISING SUN ROCK FESTIVALの環境対策活動「Earth Care」統括責任者（20年以上）
- ・ 日本有数の過疎地域と言われる旧浜益村(現石狩市)の地域循環共生圏づくり(10年程度)
- ・ 地域づくりや社会課題に取り組むプロジェクトの創出(おそらく100以上?)
- ・ 主に20代の若者が社会問題に関わる機会の創出（20年以上）※社会教育、大学連携
- ・ 社会課題や地域づくりをテーマにした相談(NPO、起業、地域おこし協力隊、10年以上)
- ・ 地域おこし協力隊のフォローアップ・サポート（たぶん300人以上）
- ・ 関係人口の創出と地域づくり（主な地域：石狩、鷹栖、栗山、厚真、標津、湧別etc）
- ・ NPOや地域づくりの中間支援(5年程度)
- ・ 災害支援(東日本大震災：釜石、ふくしまキッズ、熊本地震・災害、北海道胆振東部、能登)

良く担う役目は、何か「と」何かの間での調整役。

ROCK THE LIFE,

WFO 導入 422 ROCK 音楽事務所
www.ezorock.org
Rock The Life! ezorock 2022.03



ezorock
20th
since 2001

ROCK THE FUTURE

ezorock 2000-2021 History

■ 2000 JAPAN CASHI 10周年記念大会「2000LIVE 2000」にて「ezorock」の名称が決定

■ 2001 初の野外音楽祭「ezorock 2001」を開催

■ 2002 初の野外音楽祭「ezorock 2002」を開催

■ 2003 初の野外音楽祭「ezorock 2003」を開催

■ 2004 初の野外音楽祭「ezorock 2004」を開催

■ 2005 初の野外音楽祭「ezorock 2005」を開催

■ 2006 初の野外音楽祭「ezorock 2006」を開催

■ 2007 初の野外音楽祭「ezorock 2007」を開催

■ 2008 初の野外音楽祭「ezorock 2008」を開催

■ 2009 初の野外音楽祭「ezorock 2009」を開催

■ 2010 初の野外音楽祭「ezorock 2010」を開催

■ 2011 初の野外音楽祭「ezorock 2011」を開催

■ 2012 初の野外音楽祭「ezorock 2012」を開催

■ 2013 初の野外音楽祭「ezorock 2013」を開催

■ 2014 初の野外音楽祭「ezorock 2014」を開催

■ 2015 初の野外音楽祭「ezorock 2015」を開催

■ 2016 初の野外音楽祭「ezorock 2016」を開催

■ 2017 初の野外音楽祭「ezorock 2017」を開催

■ 2018 初の野外音楽祭「ezorock 2018」を開催

■ 2019 初の野外音楽祭「ezorock 2019」を開催

■ 2020 初の野外音楽祭「ezorock 2020」を開催

■ 2021 初の野外音楽祭「ezorock 2021」を開催

00
01
02
03
04
05
06
07
08
09
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21

国際編

■ 2000 JAPAN CASHI 10周年記念大会「2000LIVE 2000」にて「ezorock」の名称が決定

■ 2001 初の野外音楽祭「ezorock 2001」を開催

■ 2002 初の野外音楽祭「ezorock 2002」を開催

■ 2003 初の野外音楽祭「ezorock 2003」を開催

■ 2004 初の野外音楽祭「ezorock 2004」を開催

■ 2005 初の野外音楽祭「ezorock 2005」を開催

■ 2006 初の野外音楽祭「ezorock 2006」を開催

■ 2007 初の野外音楽祭「ezorock 2007」を開催

■ 2008 初の野外音楽祭「ezorock 2008」を開催

■ 2009 初の野外音楽祭「ezorock 2009」を開催

■ 2010 初の野外音楽祭「ezorock 2010」を開催

■ 2011 初の野外音楽祭「ezorock 2011」を開催

■ 2012 初の野外音楽祭「ezorock 2012」を開催

■ 2013 初の野外音楽祭「ezorock 2013」を開催

■ 2014 初の野外音楽祭「ezorock 2014」を開催

■ 2015 初の野外音楽祭「ezorock 2015」を開催

■ 2016 初の野外音楽祭「ezorock 2016」を開催

■ 2017 初の野外音楽祭「ezorock 2017」を開催

■ 2018 初の野外音楽祭「ezorock 2018」を開催

■ 2019 初の野外音楽祭「ezorock 2019」を開催

■ 2020 初の野外音楽祭「ezorock 2020」を開催

■ 2021 初の野外音楽祭「ezorock 2021」を開催

国内編

■ 2000 JAPAN CASHI 10周年記念大会「2000LIVE 2000」にて「ezorock」の名称が決定

■ 2001 初の野外音楽祭「ezorock 2001」を開催

■ 2002 初の野外音楽祭「ezorock 2002」を開催

■ 2003 初の野外音楽祭「ezorock 2003」を開催

■ 2004 初の野外音楽祭「ezorock 2004」を開催

■ 2005 初の野外音楽祭「ezorock 2005」を開催

■ 2006 初の野外音楽祭「ezorock 2006」を開催

■ 2007 初の野外音楽祭「ezorock 2007」を開催

■ 2008 初の野外音楽祭「ezorock 2008」を開催

■ 2009 初の野外音楽祭「ezorock 2009」を開催

■ 2010 初の野外音楽祭「ezorock 2010」を開催

■ 2011 初の野外音楽祭「ezorock 2011」を開催

■ 2012 初の野外音楽祭「ezorock 2012」を開催

■ 2013 初の野外音楽祭「ezorock 2013」を開催

■ 2014 初の野外音楽祭「ezorock 2014」を開催

■ 2015 初の野外音楽祭「ezorock 2015」を開催

■ 2016 初の野外音楽祭「ezorock 2016」を開催

■ 2017 初の野外音楽祭「ezorock 2017」を開催

■ 2018 初の野外音楽祭「ezorock 2018」を開催

■ 2019 初の野外音楽祭「ezorock 2019」を開催

■ 2020 初の野外音楽祭「ezorock 2020」を開催

■ 2021 初の野外音楽祭「ezorock 2021」を開催

八木 馬之助

日本最大級の野外ロックフェス

「RISING SUN ROCK FESTIVAL(RSR)」

のごみ問題から生まれたNPO法人





第一回は、会場のいたるところで、ごみの問題が噴出。
「北海道のフェスは、北海道の人たちの手で」
2000年から活動開始。

約25年が経過。今では...

「ポイ捨ての見られない、参加型のフェスに」





約7万人の来場者を巻き込むためのメッセンジャー
毎年、約200名のボランティアスタッフとともに









活動に参加する若者が、
社会の問題を自分ごとに



感謝の気持ち
ありがとうございます
やる気になった
7班 松岡 あい(仮)

行動力
- 数回結果
7班 同 同

感謝の気持ち
7班 同 同

感謝の気持ち
7班 同 同

感謝の気持ち
7班 同 同

元気
7班 同 同

感謝の気持ち
7班 同 同

感謝の気持ち
7班 同 同

①人を集める力

②現場をコーディネートする力、

③活動を通して若者がエンパワーメント
(成長していく)していく力

が、“結果的”に見につき、組織の大きな特徴に。

**NPO法人ezorockは、若者が社会課題や
地域課題に取り組む機会を作り出している団体です
が
自分の生き方を見つける団体でもあります。**

The image shows an outdoor event, likely a festival or fair, with a focus on environmental cleanup. In the foreground, there is a large, messy pile of white plastic bags, many of which are overflowing with various types of trash, including plastic bottles, paper, and other debris. In the background, a large crowd of people is gathered, some wearing hats and casual clothing. There are several white tents and a rainbow flag visible. The sky is overcast with grey clouds, and the overall atmosphere is one of a busy outdoor gathering. The text is overlaid on the image in a white box with a black border.

野外ロックフェスの環境対策活動
「Earth Care」

A photograph showing a potato harvest. In the foreground, a large pile of freshly harvested, light-brown potatoes sits on a mound of dark soil. In the background, four workers are visible, some wearing yellow hard hats and pink shirts, working in a field of green potato plants under a clear blue sky.

生ごみからじゃがいもへ RSRオーガニックファーム



自転車×まちづくり サイクルシェアポロクルの運営



過疎×若者 地域に若者が関わる仕組みづくり



地域に関わる人たちのためのゲストハウス
「はまますベース」

TODAY
はまますベース

A close-up photograph showing several people's hands, wearing clear plastic gloves, working on a large, textured piece of animal skin, likely a wolf pelt, laid out on a wooden surface. The skin is dark brown with some white residue. The people are wearing dark jackets. The background is slightly blurred, showing an indoor setting with some greenery.

エゾシカ皮の活用プロジェクト EZO WOLF STORY

A group of people, likely hikers or researchers, are standing on a rocky trail overlooking a large snowfield and a turquoise lake. The people are wearing high-visibility jackets (yellow, orange, green) and hats. The snowfield is a large, flat expanse of snow, and the lake is a small, circular body of water with a vibrant turquoise color. The background shows a hilly landscape with some trees and a clear sky.

大雪山国立公園旭岳自然保護プロジェクト

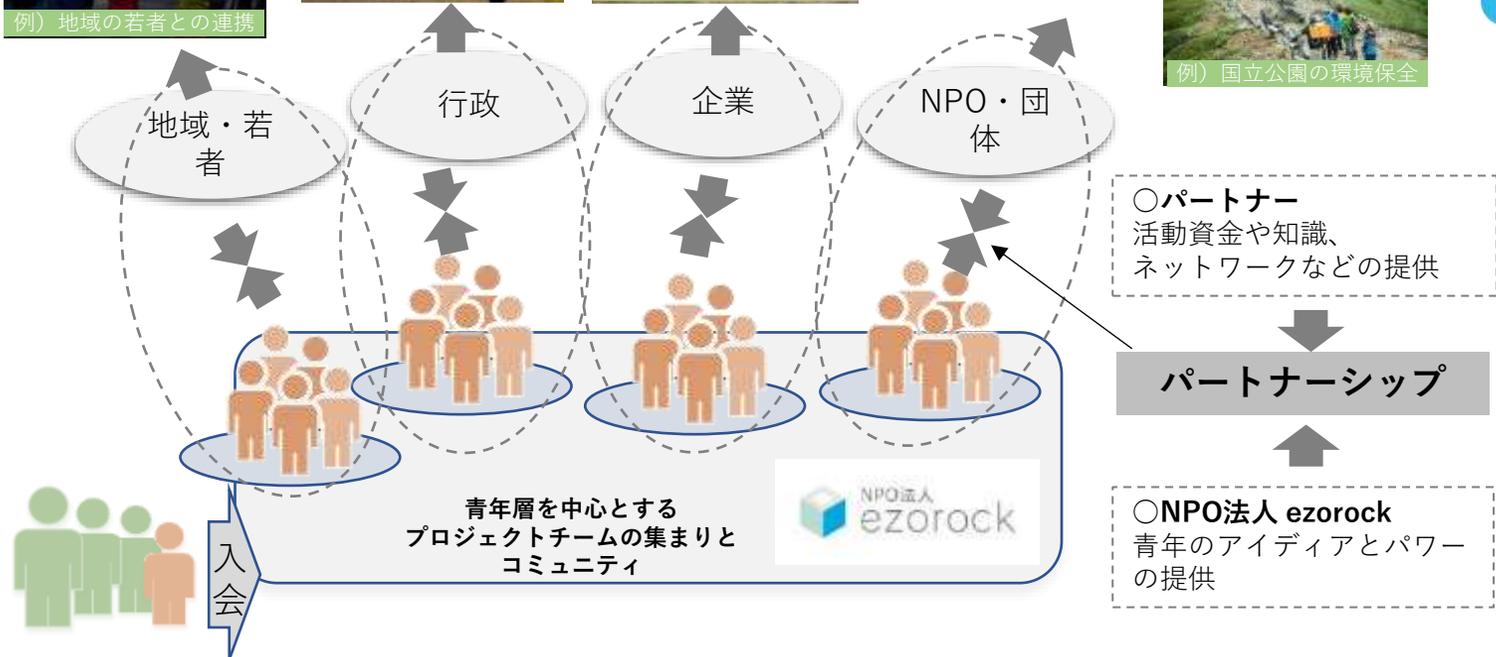


地域循環型のエネルギーづくり
薪割プロジェクト「NINOMIYA」

そして、災害時には、支援活動に



若者が社会に参加するしくみをつくってます。



活動に参加した若者の
人生に大きく影響した一言

特徴的な部分

「NPOらしい、参加型の組織を目指しています」

- 会員約450人、コアメンバー約100～150人、現場300回/年以上、会員が参加する会議の数500回？
- 2週間に一度の定例会議が重要(ほぼ総会のようなもの)
 - プロジェクトに参加する会員ならだれでも参加可能。議題を出すのもOK。
youtubeの限定公開して配信。民主的な意思決定。(議論の末、最終的に多数決になっても、少数派が最後に発言する機会を設ける)
※興味深い議題例：代表の白髪について、LGBTQのイベントへの協賛の件
- 2・3月は、各プロジェクトメンバーが事業計画をつくり、定例会議に提出。
 - フィードバックを受けて、修正、次年度の計画をまとめ、5月の総会へ
- 情報は、基本的にみんなのもの。専用SNSですべてのやり取りが見える。
 - 情報の格差を生む構図は、参加の機会を奪ってしまうため
- 基本的に誰でも参加OK。
 - ただし若者の主体性と社会性を育む組織なので、40代以上は、会費が一気に高くなる。若者中心。
- 旅費は基本的に団体持ち。
 - 会員組織ということと、できるだけ機会を平等に。